

留 学 報 告 書

記入日:2020年5月14日

所属学部／研究科・学科／専攻	文学部文学科英米文学専攻
留学先国	イギリス
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院 現 地 言 語: School of Oriental and African Studies, University of London
留学期間	2019年8月～2020年4月
留学した時の学年	4年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2020年3月19日
明治大学卒業予定年	2021年3月
留 学 先 大 学 に つ い て	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期:9月下旬～12月中旬 2 学期:1月上旬～3月下旬 3 学期:4月下旬～6 月中旬 4 学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	約 5,800 人
創立年	1916

留学費用項目	現地通貨 (ポンド)	円	備考
授業料		300,000 円	pre-sessional course 4 週間分
宿舍費	5,344	750,000 円	返金不可、10か月分
食費	2,071	290,000 円	
図書費	105	15,000 円	
学用品費	35	5,000 円	
携帯・インターネット費	110	15,000 円	
現地交通費	120	17,000 円	約15£/月(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	480	67,000 円	
被服費	35	5,000 円	
医療費	0	0円	
保険費		105,000 円	形態:海外旅行保険
渡航旅費		540,000 円	往復航空券約24万+片道航空券約30万
ビザ申請費		50,000 円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計		2,159,000 円	

渡航関連

渡航経路

往路 出発地:東京(羽田空港) 目的地:ロンドン(ヒースロー空港) 経由地:
 復路 出発地:ロンドン(ヒースロー空港) 目的地:東京(羽田空港) 経由地:

渡航費用

- ①往復チケットを購入した場合
 航空会社:ブリティッシュエアウェイズ
 料金:24万
- ②片道ずつチケットを購入した場合
 往路 航空会社: _____ 料金: _____
 復路 航空会社:ブリティッシュエアウェイズ 料金:30万 ∴合計:54万

航空券購入方法

旅行代理店(店名: HIS) インターネット(サイト名:スカイキャナー) その他()

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前: Dinwiddy House) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

留学先大学の斡旋

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

最低限の生活・勉強をする分には問題ないと思います。1000 人弱規模の大きな寮で、全員 soas の学生でしたので、安全です。運営会社の対応は柔軟とは言えないので、何か要望がある場合はしつこくいろいろがちょうどいいです。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)

なし
あり(治療を受けた場所:)

2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)

なし
あり(問題の内容や相談した人等:フラットメイト)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

街中で携帯電話のひったくりに遭いました。それ以来貴重品は常に服の下に入れておくようにしました。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

学内・寮・公共施設・カフェすべて Wi-Fi に問題はありませんでした。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

クレジットカードのみ。

6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

防犯用ストラップ(予備含め日本から2~3本持って行くことを強くお勧めします)

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか? 特になし	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Chinese 1A/1B	中国語 I A/ I B
科目設置学部・研究科	East Asian Languages and Cultures
履修期間	1 学年間
単位数	30
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義とチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 120 分が2回
担当教授	Dr.Song, Dr.Pang
授業内容	中国語初級 文法・リスニング・スピーキング等
試験・課題など	筆記試験が学期に2回、学年末にはスピーキングテストあり
感想を自由記入	中国のカルチャーをイギリス目線で学べるので大変興味深かった。また、語学の授業はクラスメイト同士のつながりが深く、友人を作りやすいと感じた。授業の進むスピードは速い。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Nation and Identity in Contemporary Japan	アイデンティティ論
科目設置学部・研究科	East Asian Languages and Cultures
履修期間	1学期間 (Term1)
単位数	15
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義とチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 120 分が1回
担当教授	Dr.Andrea Kirsch
授業内容	日本の戦後(GHQ 時代)~現代までの天皇家・各政党の変遷と、国民のアイデンティティ形成の変遷を学ぶ。
試験・課題など	エッセイ2つ
感想を自由記入	非日本人著者による、天皇制に関する文献は日本ではなかなか手に入らないため、非常に有益な授業だった。また教授の説明・スライドも丁寧だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Japanese Cinema: a Critical Survey		日本映画文化論	
科目設置学部・研究科	East Asian Languages and Cultures		
履修期間	1 学期間 (Term 1)		
単位数	15		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義とチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回		
担当教授	Dr. Adam Bingham		
授業内容	黒澤明～宮崎駿監督まで、戦後の日本映画と、それが世界の映画界に与えた影響を分析する。		
試験・課題など	エッセイ2つ		
感想を自由記入	リーディング・スライド等に映像記号論の専門用語がよく使われるため、エッセイを書くのに苦労した。日本映画について、海外の視聴者に好まれる要素とその理由を理解できた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Reading and Writing East Asian Studies		リーディング＆ライティング	
科目設置学部・研究科	East Asian Languages and Cultures		
履修期間	1 学期間(Term1)		
単位数	15		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義のみ(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回		
担当教授	Dr. Yangruxin Liu		
授業内容	学部1年生向けの授業。文献の探し方、図書館や各論文サイトの使い方、引用の仕方等、エッセイを書く際に必要な基礎を学ぶ。		
試験・課題など	ブックレビュー2つ		
感想を自由記入	スライドが丁寧で、その他の授業の課題をする際にも非常に役に立った。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Gender and Society in Contemporary Japan		現代日本におけるジェンダーと社会	
科目設置学部・研究科	East Asian Languages and Cultures		
履修期間	1 学期間(Term2)		
単位数	15		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義とチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回		
担当教授	Dr. Andrea Kirsch		
授業内容	戦後のジェンダーイデオロギーの変遷を、日本社会の変遷と共に学ぶ。		
試験・課題など	エッセイ2つ		
感想を自由記入	「モガ」「少女マンガ」「フェミ男」「サラリーマン」等、ジェンダーにまつわる語彙をイギリス目線で定義、考察していく授業。これまで何気なく使っていた言葉が、実は日本特有のものだったのだ、と毎週驚かされた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Cool Japan: manga, anime, sushi	クールジャパン
科目設置学部・研究科	East Asian Languages and Cultures
履修期間	1学期間(Term2)
単位数	15
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義とチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Dr.Griseldish Kirsch
授業内容	文化盗用と日本の「クールジャパン戦略」について。
試験・課題など	ミュージアムレポートとエッセイ1つ
感想を自由記入	クールジャパンを推し進めるメディアの目的等を学んだ。課題では常に客観視が求められるため、日本文化の中で育ってきた者にとっては難しいと感じた。クリティカルシンキングが身につく。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Social Anthropology	社会文化人類学基礎
科目設置学部・研究科	Social Anthropology
履修期間	1学期間(Term2)
単位数	15
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義とチュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回と60分が1回
担当教授	Dr.Gunvor Jonsson
授業内容	移民と生態学に関する文献2冊を丸々読み切ることが目的。
試験・課題など	エッセイ1つ
感想を自由記入	学部1年生向けではあるが、トピックに関する知識が少ない学生にとって文献は難解。講義はわかりやすいがスピードは速く、毎週のリーディングも多量。その分成長を実感でき、達成感が味わえる。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記2以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2) 進路決定の際に活用したウェブサイト, 書籍, 機関など
ポستنキャリアフォーラム
3) 就職を選択した方は, 差し支えなければ内定先を教えてください。また, その企業を選んだ理由も教えてください
4) 就職活動中・終了に関わらず, 就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
授業とボスキヤリの両立は正直なところ、精神的にも時間的にもとてもしんどかったです。しかし、参加するだけのメリットはあったと、個人的には思います。海外志向のある学生は、理念に共感できる会社がたくさん出会えると思います。
5) 進学を選択した方は, 差し支えなければ進学先を教えてください。
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備, 試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は, その進路を選択した理由と, 留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, ビザ申請・取得, 航空券購入, 予防接種, 滞在先の確保, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

2018年 1月～3月	
4月～7月	情報収集
8月～9月	情報収集
10月～12月	IELTS 試験勉強、学内選考
2019年 1月～3月	IELTS 試験勉強、奨学金応募
4月～7月	留学先大学への出願、ビザ・寮申請、ビザ取得、航空券購入、奨学金選考
8月～9月	出国
10月～12月	Term1
2020年 1月～3月	Term2、コロナウイルスの影響で帰国
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

【グループ 留学報告書】

・ 留学の目的

私の留学の目的は、ヨーロッパ視点で「現代日本社会」、特に「日本人のアイデンティティ」を多角的に分析することです。そのため、“Japanese Studies”、すなわち「日本学」を専攻したいと考えました。留学先であるロンドン大学アジア・アフリカ研究学院(以下 SOAS)は、イギリスで唯一、かつ世界最大の「アジア・アフリカ地域研究に特化した教育機関」です。そのため SOAS の日本学専攻では質の高い授業が受けられると考えました。また、全体の約5割に当たる 3000 人以上の学生が、世界 100 か国以上から集まった留学生であり、国際色豊かであることも理由の1つです。

・ 大学の雰囲気

全世界から移民が集まるロンドンらしく、大学に集まる学生や職員の人種・国籍は多種多様です。人種・国籍を一言で説明できる人の方が珍しいため、そのようなことは気にせず、皆同じ「地球人」同士として接している感じがありました。院生との共通授業が多く、30 代以上の学生も少なくないため、様々な年齢層(10 代から 50 代に至るまで)の学生と仲良くなれます。アジア人(パキスタン、マレーシア、韓国、中国、台湾、日本等)が比較的多いこと、多言語の語学が堪能な学生が多いことも特徴です。

・ 寮に関して

私のいた Dinwiddy House は SOAS の学生のみ(主に学部生)が住んでいるため、(盗難の心配があまりないなど)安全です。困ったことがあった時は友人にすぐ助けを求められるので助かりました。また、立地が素晴らしいです。徒歩五分の距離にはキングスクロスという主要ターミナル駅があり、ロンドン市内や空港、国外にもアクセスしやすいです。ショッピングモールも近いので生活するには非常に便利でした。

・ 苦労したこと

現地で苦労したのは、前提知識がない授業についていくことです。専門用語や文献を理解するだけで一苦労でしたが、授業ではそれを使って自分の考えを述べ、最終的にはエッセイを書かなければなりません。基礎知識は日本語で調べることができました。

また、授業の要点だけでも理解できるよう、オフィスアワーを使ってチューターや教授、クラスメイトに助けを求めました。明治の授業でお世話になった先生方にも相談させていただきました。

・ 授業について

授業は、これまで出会ってこなかった考えや知識、文献の宝庫でした。リーディングや授業中のスライド、他の学生の意見には毎回驚かされました。例えば「現代日本ジェンダー論」では、私たち日本人が日常で使っている単語を、ヨーロッパ人目線で定義し直します。日本人にとっての「当たり前」が、授業中に教授や学生によってどんどん覆っていく体験は新鮮でした。

・ 学外の活動

基本的に授業の予習で忙しかったので、日常生活の中で友人との繋がりを大切にしました。例えば、自主学習は常に友人と一緒にしました。寮の近くには大英図書館があったので、週末も気持ちの良い環境で勉強できました。また、昼食や夕食をなるべく友人と一緒に取るようにしました。

ロンドンには芸術の街なので、美術館やミュージカルも思う存分堪能しました。そのほかに、毎週土曜日には日本語ボランティアに参加しました。

・ 全体を振り返って

今回の留学先は、「日本のことを勉強する場」として、想像を遥かに超える良い環境でした。あれほど国際色豊かで、かつアジアの文化に理解のある学生が集まる場所は他になかなかないと思います。現地で日本のカルチャーがどれだけ愛されているか実感しました。と同時に、日本人として、もっと知るべきことがあるな、とも感じました。今後は、この留学で得た知見をもっと広める活動をしていこうと思います。

・ 留学を志す方へ

留学で得た体験はもちろん素晴らしいものばかりですが、こう思えるのも、留学を実現するために奮闘した経験があってこそだと感じました。たくさんの時間と労力とお金をかけることになると思うので、本当に行きたいところを目指し、本当に学びたいことを学んでください。その経験があって初めて、心が震えるものに出会えると感じました。せっかく留学する機会があるのであれば、諦めずに挑戦しなければもったいないです。私も目標達成にはまだまだですので、一緒に頑張りましょう。

以下、エッセイ(英語)を書く際に役に立つサイトです。よければ参考にしてください。

- ・Thesaurus…類義語辞典
- ・Just the Word…コロケーション辞典
- ・UEfAP…エッセイのノウハウと使える表現集